

実践報告書

- 記入日：2025年3月31日
- タイトル：知的障害特別支援学校における協働
- ご所属：東京学芸大学附属特別支援学校
- お氏名：岩井祐一（いわいゆういち）
- 略歴：特別支援教育を専門とし、知的障害教育における保健体育科教育や理科教育、ICT活用などに関する研究を行う。早稲田大学大学院人間科学研究科修了（実践人間科学修士）。現在、東京学芸大学附属特別支援学校及び東京学芸大学教育インキュベーションに勤務。

1. 実践の背景:

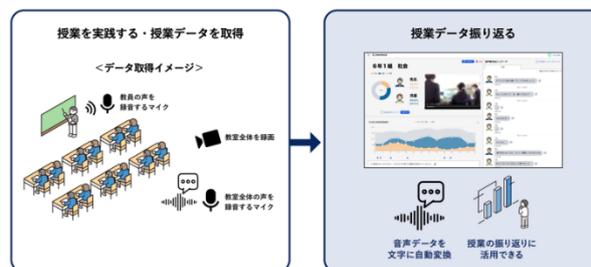
企業との協働を取り入れた背景には、子どもたちの「生きる力」を育むために、様々な手立てが必要であると考えたからです。これからの社会では、変化に柔軟に対応し、主体的に課題を見つけて解決する力が求められています。そのため、実社会と直接関わることで、学びが「自分ごと」となり、子どもたちの内発的動機付けを高めることができると考えました。また、企業が持つ専門性や実践知を学びに取り入れることで、学校教育が抱える「学びの単線化」「閉鎖性」を打破し、協働的な学びの場が創出されると期待しています。このような学びの中で、児童生徒は他者と共に考え、異なる視点を取り入れながら協働的に課題を解決する経験を積むことができます。

2. 実践の目的:

本研究は、知的障害特別支援学校高等部における自分自身と関わることばの育成を目指した授業実践でした。生涯発達を支える言語コミュニケーションの支援をテーマとして、生涯発達におけることばの役割を考え、知的障害の子どもたちにとっての言語活動を充実させる教育の開発を行いました。授業実践では、reflection（振り返り）に着目して、生徒が自分自身と関わることばの育成に向けて内容を検討しました。

その中で、授業の評価は非常に重要な役割を持っています。そこで、classtock（クラストック）を活用し、授業を可視化するとともに授業実践の評価及び改善を試みながら研究の充実を図りたいと考えました。加えて、classtock（クラストック）のデータを参照しながら、授業研究会等を実施して、教員の資質・向上につなげていくこととしました。

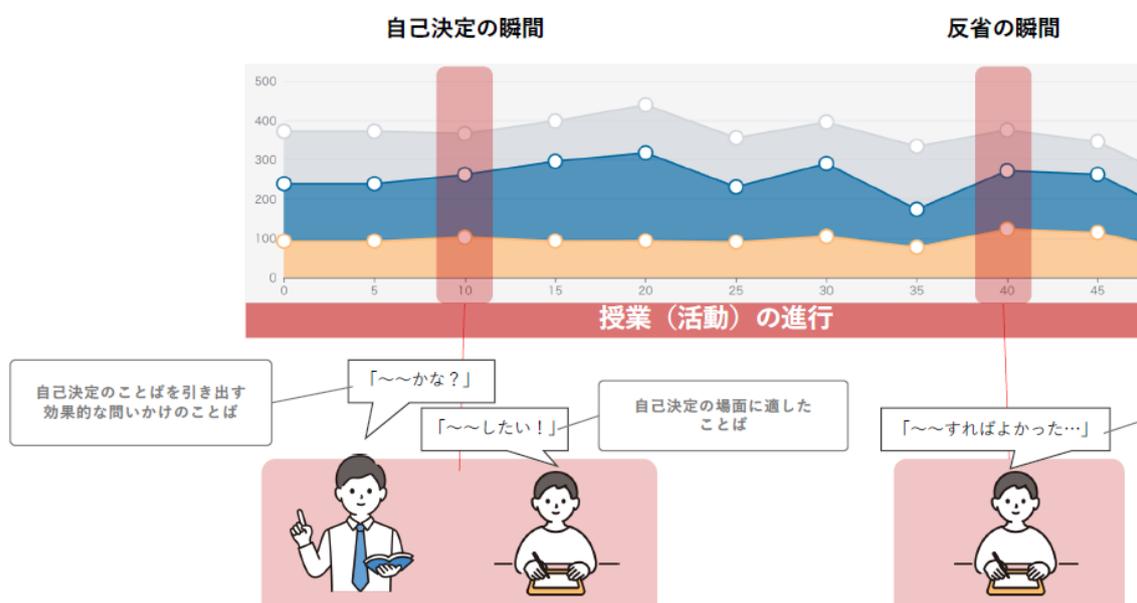
 **classtock** (クラストック)
classtockは、「指導力を上げたい」「授業を改善したい」
そんな教員の皆さんの学びを応援するためのサービス（Webアプリケーション）です。



実践の内容:

実践の方法:

- 本実践では、特別支援学校高等部において、「自分自身と関わるためのことば」の育成を目指した授業に、ICTツール「クラストック（Classtock）」を活用した。対象となったのは体育（剣道）授業であり、「振り返り（Reflection）」を通じて内省を促す学習構造を設計した（図はイメージ）。
- 授業では、生徒の動作や言語表現の様子を撮影し、指導の根拠や生徒の変容を客観的に把握するために活用した。また、事前に PVT-R 検査を行い、生徒の語彙理解の実態を把握した上で、個別の支援計画とグルーピングを行った。



実践の結果:

- クラストックを用いた記録と分析により、従来の観察では捉えにくかった生徒の「ことば」に着目して評価を行うことが出来た。さらに、視覚的な支援（動画やスライド）と、仲間との協働活動の中で得た成功体験が自己理解や意欲向上に寄与していた。ICTを通じた評価は、教師にとっても授業改善に向けた明確なエビデンスとなり、他教員との協議や実践共有を促進する材料となった。



実践の課題:

- 一方で、振り返りの言語化には個人差があり、語彙力が不足する生徒には支援が必要であった。振り返りのための時間確保が難しく、授業時間配分の工夫が求められた。クラストックの操作や編集に関しては、特定の教員が本実践では行っており、継続的な研修が必要であると感じられた。生徒の言語変容の可視化は一定の効果が見られたが、その効果を定量的に分析する指標が不足していた。また、クラストックを用いた評価は「教師側の見取り」に偏りがちであり、生徒自身が映像を見て自己評価を行うような学習者参加型の活用が今後の課題である。

今後の展望:

- 今後は以下のような展望をもって、クラストックを活用した実践を発展させていきたい。
 - **生徒自身による映像活用の促進**：クラストックを用いて生徒自身が「自分を見る」「変化を知る」経験を持てるような指導を工夫し、自己理解と自己決定に繋げていく。
 - **教員間の共有と研修**：クラストックの効果的な活用方法について、校内研修や動画共有を通して実践知を蓄積・共有していく。